

菊川西中だより

校長室の窓

いいね！は事実、だ
めだよ！は仮説！
デジカメ持って
良い所見つけ！



私が静岡県総合教育センターで指導主事をしていた時の話です。今から10年以上前なのですが、岐阜市の京町小学校を視察する機会を与えていただきました。京町小学校の「ICTを活用した授業」を学んでくることが目的でしたが、校長の井上志朗先生が私と同じ県教委の「理科の指導主事」をしていた事があるということで、校長室で意気投合して、ラフな話になりました。その時井上校長先生がおっしゃった言葉です。少し長くなりますが、私の記憶をたよりに引用してみます。

(引用)「森田さん、あなたもしばらくすると校長になるかもしれません。そうしたら1日に何度かは校内を見回ることになります。その時は必ずデジカメを持って行きなさい。そうすると、あなたは『良い所』を探そうとします。あなたが写真を撮ろうと思ったところが子どもたちや先生たちの『良い姿』なのです。手ぶらで行くとどうでしょう。『こんな所にごみが落ちている』『今すれ違った子は会釈もしない』『〇〇先生の黒板の使い方はなってない』・・・など、悪いところばかりが目についてしまいますよ。」**(引用終わり)**

それ以来、中学、高校の教頭の時、前任の河城小学校でも校内を回るときは必ずデジカメを持っていきました。井上先生のおっしゃるとおり、カメラのファインダから覗く子どもたちの表情は実に生き生きしています。先生たちの授業も躍動感にあふれています。

私は先生たちに「子どもたちが『〇〇ができた』と言うのは**事実**です。一方、『〇〇したのがまずかった』と言うのは「**こうした方が良いかも知れない**」という**仮説**でしかありません。仮説をいくら積み上げても子どもたちは伸びません。『事実を積み上げましょう』つまり『子どもたちのよさを見取り』ましょう。」と話したことがあります。「**良い所見つけ**」は色々な学校で実践されていることで、珍しいことではありませんが、「**なぜ良い所見つけなのか**」という理論がないと単に「良い所を見つめました」と言うことだけに終わってしまいます。「**子どもの良い所を見つけて、それを的確に評価し、子どもたちに返すこと**」を繰り返すことによって、必ず子どもは伸びると思います。※**校長、教頭が的確に先生たちの良さを見取り、評価して先生たちに話す事によって先生たちの指導力が伸びるのももちろんです。**

現在、菊西中の学校ホームページでは、トップページのブログが子どもたちや先生たちの素敵な姿であふれています。しかし、いくら子どもたちの素敵な姿でもWeb上に公開するには解像度を落とすなどの手立てを講じる必要があります。そこで、ホームページに加えて写真のような「菊西中 Photo Gallery」を校長室前の掲示板に設定しました。校舎内の掲示板ですので、比較的大きな写真も掲示できますので、参観会等で来校の際はぜひ御覧ください。幸いです。

